

【血 圧】

血圧計の始業点検を行う

- きちんと作動するか確認。

血圧測定の手注意

- 原則として**右腕**で測定する。(測定条件を統一させるためです。困難な場合は左腕でもよい。)
- 腕が衣類で圧迫されていないか確認する。圧迫されているときは上着を脱いでもらう。
- 測定部位はなるべく心臓と同じ高さにする。
- マンシェットを巻く強さは、指が1~2本入る程度にする。

【手動血圧計の際の注意点】

上腕動脈を確認し聴診器をあてる。

原則として**聴診器は素肌**に直接あてる。シャツがまくり上げられないなど直接あてるのが困難な場合は、シャツの上からあててもよい。(薄手のシャツならば)

測定値は**偶数読み**する。(2mmHgずつ)・・・手動血圧計に限る

最低血圧が0mmHgの場合、血管音(コロトコフ音)の**第4点**を最低血圧とする。

- 測定値 **135/85mmHg以上、90/50mmHg以下**で再測定。

(事業所によっては基準値が異なります。要確認！)

- 数値が基準値以上の場合は2~3回ゆっくりと深呼吸してもらってから再測定。
- 数字は**確実に**いねいに記入。(数字の記入があいまいだと、データ入力の際にとっても困ります)
- 受診者からの質問には必要以上に説明・指示をしない。

病気を断定するようなことは言わず、医師からの指示を仰ぐよう説明する。

測定

- 既往歴・自覚症状・家族歴・食事の有無などの確認。(受診票により記入欄・記入方法が異なります。その日に必ず確認して下さい。)

※ **測定基準は健診によって変わります。健診前にチーフに確認しましょう。**

※ 以上・以下はその数値も含まれます。注意してください。

受診者が納得しないような場合は再測定して頂いて構いません。

※健診終了後、管理ノートに人数等の記入をする。(自動血圧計のみ)

緊急値

◎ 2回測定しても収縮期の数値が180、拡張期の数値が110を越える場合
(収縮期、拡張期どちらか一方でも当てはまれば)

→チーフに報告→医師へ報告し受診者へ病院受診を促して頂く。

- ・緊急値報告書に医師のコメントをしてもらい、本部へ提出。

※治療中の方は対象外とする(チーフへの報告は行う)

下請けの際は条件が異なることがあるので、チーフに報告し元請けの指示に従う。

2017年3月 改訂